

2020 年度 第 5 回理事会議事録

I. 会議名 : 2020 年度 (公社) 日本地すべり学会 第 5 回理事会

II. 開催日時 : 2021 年 3 月 12 日 (金) 14 時 30 分～17 時 30 分

III. 開催場所 : WEB会議

IV. 出席者 : 理事出席 19 名, 監事出席 1 名, その他 1 名

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
理事	浅野 志穂	○	理事	太田 英将	○	理事	富田 陽子	○
理事	石丸 聡	○	理事	加藤 猛士	○	理事	中里 裕臣	○
理事	岩橋 純子	○	理事	笹原 克夫	○	理事	中村 真也	×
理事	宇次原 雅之	○	理事	佐藤 剛	○	理事	平松 晋也	○
理事	榎田 充哉	○	理事	佐藤 浩	○	理事	藤井 俊逸	○
理事	大河原 正文	○	理事	柴崎 宣之	○	理事	渡部 直喜	○
理事	小山内 信智	○	理事	高山 陶子	○	(理事 19 名, 定足数 11 名)		

監事	今泉 文寿	○	監事	相楽 渉	×	(監事 1 名)		
----	-------	---	----	------	---	----------	--	--

事務局	鈴木 英則	—	—	(その他 1 名)			
-----	-------	---	---	-----------	--	--	--

○理事会開始時における理事の出席数は 17 名. 定足数 11 名 (理事の過半数) を満たし理事会は成立.

○高山理事は, 審議事項-1, 議事録確認前から出席 (出席理事 18 名).

○小山内理事は, 審議事項-1, 議事録確認後から出席 (出席理事 19 名).

○加藤理事は, 審議事項-9 を終えて退席 (出席理事 18 名).

○大河原理事は 報告事項-2 を終えて退席 (出席理事 17 名)

○議事録署名人は, 平松会長、今泉監事

<議長あいさつ>

平松会長が開会のあいさつを行った.

○高山理事が参加

<議事録の確認>

これまで前回の議事録の確認は, 審議事項の中で確認を行っていた. しかし, 現在は, 理事

会の後、メールにて理事へ事前に内容を確認、承認を頂いている。このため、今回から（メール等で事前に確認している場合）、理事会議事録は、審議事項ではなく、理事会参考資料として付け加える。

○小山内理事が参加

議題Ⅰ．審議事項

1. 2021 年度事業計画

各部長、各支部長、各委員長、担当理事より次年度の事業計画についてそれぞれ説明が行われた。長が理事会へ参加していない部・委員会・支部については、以下の理事が報告した。

- ・表彰委員会、九州支部：柴崎理事
- ・ICL 委員会：笹原理事
- ・関東支部：中里副会長
- ・中部支部：平松会長

なお、北海道支部については、石丸理事のマイクが不通なため、柴崎理事が代理で報告した。石丸理事からの重要な連絡事項は、チャットあるいは、議事録に記載することとした。また、藤井理事より学会アウトリーチの今年度の活動状況および今後の予定について報告が行われた。

事業計画書に記載されていない内容、事業計画書から変更した内容は、以下の通りである。

- ・東北支部では、総会とシンポジウムを 5 月に同時に行う予定であったが、コロナ禍を考慮して総会とシンポジウムは分けて行う。
- ・北海道支部の総会はオンラインで行い、研究発表会は秋以降に行うよう変更となった（チャットによる報告）。
- ・理事からの意見、質問は特になく、審議の結果、賛成 19 票、反対 0 票で承認された。

2. 2021 年度収支予算

柴崎理事より、資料に基づき、2021 年度の収支予算について説明が行われた。

- ・理事からの意見、質問は特になく、審議の結果、賛成 19 票、反対 0 票で承認された。

3. 2021・2022 年度の社員総会と理事会の日程

柴崎理事より、資料に基づき、2021・2022 年度の社員総会と理事会の日程について説明が

行われた。

- ・理事からの意見，質問は特になく，審議の結果，賛成 19 票，反対 0 票で承認された。

4. 2021 年度社員総会の議題・実施形態及び進め方

柴崎理事より，資料に基づき，2021 年度社員総会の議題・実施形態の進め方について説明が行われた。理事からの意見は以下の通りである。

- ・理事会での決議を確実にを行うためには，昨年同様の委任状や書面議決を主体とした対面形式で行うことが良い。
- ・WEB での開催と対面でのメリット，デメリットを検討した上での執行部案なので，昨年同様の委任状や書面議決を主体とした対面形式で理事会を行うことに賛成する。

- ・審議の結果，賛成 19 票，反対 0 票で承認された。

5. 2021 年度日本地すべり学会シンポジウム

佐藤（剛）理事より，資料に基づき，2021 年度日本地すべり学会シンポジウムについて説明が行われた。理事からの意見，質疑応答は以下の通りである。

- ・学生の参加費は，無料にして良いのではないか？
- ・来年度以降，対面形式でシンポジウムを開催することが可能になった場合，学生の参加費は無料にするのか？
- ・このシンポジウムは，支部がトピックス的に開催するものではなく，日本地すべり学会本部の事業計画部が計画主体となって永続的に開催するものである。今の状況だけで，判断するのではなく，今後も見据えて判断すべきである。
- これまで学生から頂いていた参加費 1000 円は，印刷資料代であったという認識がある。その認識の中では，今後，対面でシンポジウムを行った場合においては，資料を地すべり学会のホームページ等からダウンロードすることで，参加費は無料にできると思う。
- オンラインにした場合は学生にはインパクトあると思う。
- 地すべり学会は，若手の会員を増やしたいという目標がある。学生の参加料を無料にすることで，地すべり学会は，若い方を集めたいという意味があるという位置づけにしたい。
- 学生の参加費を無料にすることは賛成である。ただし，申込みの学生に対してアンケートに回答頂く等，学生とコンタクトがとれるような工夫は必要と考える。また参加費無料の効果もアンケートを通じて検討してはどうか。
- 今，参加費無料としている学生とは学生会員のことか？ それとも，非会員である学生も対象か？
- 地すべり学会員であることの特典が必要である。このため参加費無料は学生会員のことであ

る。

・オンラインで行うシンポジウムに参加した一般会員，企業に対して CPD を発行する予定か？
→発行する予定である。

・今回のシンポジウムのテーマは，「地質学で地すべりを解明する」である。日本応用地質学会に後援依頼する予定となっているが，良いか？

→良い。

・以上の議論をとりまとめ，以下の①～③について審議を行う。

① 学生会員についてはシンポジウムの参加費は無料とする。

② 参加頂いた学生会員にはアンケートを実施する。

③ 応用地質学会に後援を依頼する。

・審議の結果，上記①～③に対して賛成 19 反対 0 で承認された。

6. 北海道大会の実施

石丸理事より，資料に基づき，北海道大会の実施方法について説明が行われた。理事からの意見，質疑応答は以下の通りである。

・オンラインで大会を行うことは賛同できる。ただし，以前，展示の参加者から，展示に参加することのメリットは，大会参加者と名刺の交換ができることであると聞いたことがある。オンライン開催においても，名刺交換に代わるような工夫ができると良い。

・オンラインシステムについては，国土交通省では MS-Teams に変わりつつある。ただ，Teams は，大人数の会議だけを想定したシステムではないので，ビデオ表示できる人数も 4 名程度になっているようである。

→オンラインのシステムについて検討して欲しい。

→今，事業計画部で検討中である。

→Teams については，MS サイトによるとビデオ画面表示は現在 9 名までであるが，今後 4 9 名に拡大するという情報がある。

・上記の理事の意見を踏まえて，開催方法について検討を進めることで審議を行った結果，賛成 19 反対 0 で承認された。

7. 2022 年度日本地すべり学会研究発表会担当支部

佐藤（剛）理事より，資料に基づき，2022 年度日本地すべり学会研究発表会担当支部について説明が行われた。理事からの意見，質疑応答は以下の通りである。

・九州支部が担当することを提案する。九州支部では未確定であるが福岡で開催する案が出ている模様である。なお理事会ではどこの支部が担当するかを承認し開催場所は担当支部が決める。

・同じ年に砂防関係の全国大会の候補検討に関係した問い合わせに対して，地すべり学会では福岡を研究発表会候補地として検討している旨伝えている。

→先のことなので、どこの学会がどこで全国大会を行うかまでは調整できない、地すべり学会の考えで、開催場所を決めれば良い。

2022年度の研究発表会の担当支部は、九州支部とすることで審議を行った結果、賛成 19 反対 0 で承認された。ただし、開催場所は福岡を推奨したい旨を九州支部へ申し伝える。

8. 若手会員対策

加藤理事より、資料に基づいて若手対策 WG の活動概要と方針について説明が行われた。

また、富田理事より、資料に基づいて地すべり学会 CIM ネットワーク（仮称）の設置について説明が行われた。富田理事が求めた審議事項は、以下に示す地すべり学会 CIM ネットワーク（仮称）の活動方針である。

【地すべり学会 CIM ネットワーク（仮称）の活動方針】

- ① 名称は、地すべり学会 CIM ネットワークとする。
- ② CIM はバーチャルな判断、現場での実体験がないと判断が難しい。シニアのような経験豊富な技術者の助けが必要である。
- ③ 開催は、2 か月に 1.5 時間程度として、誰かひとりに負担がかかるのは避けたい。
- ④ 開催回数は、年 5 回程度を考えている。
- ⑤ 会を開催するためにオーガナイザーを公募する。オーガナイザーの人数は全部で 10 名程度（2 名/回×5 回=10 名）を想定している。
- ⑥ オーガナイザーになった方には地すべり学会 CIM ネットワークオーガナイザーと名刺に記載できる。
- ⑦ オーガナイザーは、会を開催するための準備時間及び開催時間に対して CPD が付与される。
- ⑧ オーガナイザーの期限を設ける。

理事からの意見、質疑応答は以下の通りである。

・CIM ネットワークへの参加条件は、地すべり学会の会員を増やすのであれば、会員外も求めることが良い。地すべり学会員の特典という点では、会員に限定した方が良い、どちらを考えているか？外部から講師等を招く場合は、謝礼等の予算措置が必要と考える。

→学会員を想定している。外部を招く場合には、講師料等の予算措置は必要であるとも考えている。しかしまずは企業の営業活動の一環として無償で協力してもらえないか声かけをしたいと考えている。ただし、講習会の開催費用が高価になる場合は、参加費を徴収することを考えている。

・開催形式は、基本的にオンラインを考えているか？

→オンラインの場合は、遠方の方でも参加できるメリットがある。CIM 講習会参加者のアンケート結果でも、オンラインのメリットとして、そのような声があった。

・まずは、立ち上げることが先決と考えているが、活動は何年行うのか？

→まずは 2 年を考えている。オンラインを基本としているため、バーチャルな活動になります。現場の実体験なしでのバーチャルな経験で、十分な効果は得られないと考えている。

→オンラインだけでなく、状況に応じて、現場での開催も併用しながら活動して欲しい

・若手活動の連絡会の状況どうなっているかは？

→若手活動に関しては連絡会の活動はまだ行っていない。

→支部への情報共有の取組みも視野に入れて活動を行って欲しい。

→会員数対策の連絡会の支部担当者のリストは既に出ており、活動の準備は進んでいる。

・CIMのネットワーク活動は賛成である。CIMのコンテンツの話をしだすと難しく、窮屈になっていくように思う。CIMが標準化してくるとCADソフトの設備投資も高価で、一般企業の負担になってきている。安価で、使いやすいCADソフトはどのようなものがあるか？等、議題を広く対応して欲しい。

→了解した。

→CIMはツールという意識をもって活動して欲しい。

・地すべり学会のCIMネットワークオーガナイザーと名刺に記載できるようにするために、地すべり学会が認めた者であるという位置づけを対外的にも明確にしておく必要がある。そのためには活動内容と名称、名刺にオーガナイザーと名称表示できることなどの細則を設ける必要がある。

→他学会、例えば、日本地理学会では、地域調査に関して高度な知識及び実務能力を有する者を学会が認定している制度がある。

→簡単で良いので細則を作ることが良い。細則は総務部に加える。細則は総務部が作成する。

CIM ネットワーク（仮称）活動内容について、審議の結果、賛成 19 反対 0 で承認された。

9. 学会誌シリーズ「地すべり探訪」の輪番 投稿のお願い

渡部理事より、資料に基づき、地すべり探訪への投稿を各支部の持ち回り担当（輪番）でお願いしたいと説明が行われた。

理事からの意見、質疑応答は以下の通りである。

・非常に面白い企画である。持ち回り担当（輪番）で行うことに賛成したい。

・審議の結果、賛成 19 反対 0 で承認された。

○加藤理事 退席

10. 海外からの入金及び書籍販売やイベント参加へのクレジット支払機能追加

鈴木事務局長より、資料に基づき、海外からの入金及び書籍販売やイベント参加へのクレジット支払機能追加について説明が行われた。

理事からの意見、質疑応答は特になく、審議の結果、賛成 18 反対 0 で承認された。

1 1. 斜面防災技術の国際化委員会の活動期間延長

榎田副会長より、資料に基づき、斜面防災技術の国際化委員会の活動延長について説明が行われた。

理事からの意見、質疑応答は特になく、審議の結果、賛成 18, 反対 0 で承認された。

1 2. 防災学術連携体への加入と連携委員

浅野専務理事より、資料に基づき、防災学術連携体への加入と連携委員について説明が行われた。

審議事項は以下の通りである。

- ① 一般社団法人防災学術連携体へ入会すること
- ② 一般社団法人防災学術連携体の連携委員：佐藤理事，岩橋理事

理事からの意見、質疑応答は特になく、審議の結果、賛成 18 反対 0 で承認された

1 3. 入退会者状況

鈴木事務局長より、資料に基づき、地すべり学会への入退会状況について説明が行われた。

・理事からの意見、質疑応答は特になく、審議の結果、入会者については賛成 18, 反対 0 で承認された。

1 4. その他

特になし。

議題Ⅱ. 報告事項

1. 次期代議員候補者

柴崎理事より、次期代議員候補者と3月10日時点での投票率について報告がなされた。理事からの意見、質疑応答は特になかった。

2. 学会誌の投稿審査システムの Editorial Manager への切替え

渡部理事より、学会誌の投稿審査システムの Editorial Manager (EM)への切り替えについて以下の説明が行われた。

・現行システムが老朽化しており EMへ切り替え作業を急ピッチで実施している。ただシステムに慣れるまでは投稿者等に不便をかけるので、移行期間を1年程度設ける予定。

理事からの意見、質疑応答は以下の通りである。

- ・JSTからの補助事業と思うが、補助期間はあるのか？
- 今のところ、期限の話はでていない。

○大河原理事 退席

3. 研究委員会新規テーマ募集と委員追加公募

笹原理事より、資料に基づき、「研究委員会 新規テーマの募集」の募集を行うとの報告がなされた。

また、地すべり学会で現在行っている下記の6つの課題テーマの研究委員会の内、①～④について追加委員の募集を行うと報告がなされた。

理事からの意見、質疑応答は、特になかった。

- ① 斜面動態モニタリングデータに基づく崩壊発生予測研究委員会（代表：笹原克夫，期間：2017年4月～2022年3月）
- ② 地震地すべり研究委員会（代表：土井一生，期間：2018年10月～2023年3月）
- ③ 雪氷圏の地すべり研究委員会（代表：岡本隆，期間：2018年10月～2024年3月）
- ④ すべり面および移動体の物質科学・構造研究委員会（代表：中村真也，期間：2019年4月～2024年3月）
- ⑤ 地すべり地形判読の先端的な技術伝承手法の開発研究委員会（代表：佐藤剛，期間：2019年4月～2022年3月）
- ⑥ 地すべりブロックの設定に関する研究委員会（代表：林一成，期間：2020年5月～2023年4月）

4. その他

特になし。

以上

議 長 平松 晋也 (印)

議事録署名人 今泉 文寿 (印)